

つら

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI
No. 697

11
November, 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金



松葉ガニ漁解禁 (香美町)

淡路島の生サワラ丼 販売開始!

海事債権条約の改正で船主責任制限額引き上げへ

《今月の海上安全標語》～ 得した気分!? ～

某メーカーのお菓子を買うと、「おもちゃ」が付いてきます。

JF兵庫漁連が開発した浮力付合羽を買うと、「浮力」といっしょに「安全」が付いてきます!

お買い得! 漁連の合羽は 浮力付き では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(「ようこそ」は航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときに号令として使われる)

還暦を迎えて思うこと……

但馬漁船保険組合 参事 中村 光男



今年も十二支の七番目の午年です。私も五回目の年男で二月一日にとうとう還暦を迎えました。私が子供の頃は、六十歳の男の人をみると随分年寄りで「おじいさん」そのものであった。

それも道理で一六〇年代の日本人の平均寿命は男性が六五歳、女性が七〇歳(老衰死亡率は人口10万人当たり58%)の時代であった。あの当時の還暦の人と比較すると、まだまだ自分では若いと思っているが、ボツボツ心身共に「ガタ」がきていると感じることが多くなってきた。

例えば、一日、一週間、一ヶ月過ぎるのがだんだん早いと感じるようになってきたこと、物忘れが多くなったこと、寝ていてトイレなどに起きるときには、膝が痛く一呼吸置かないと起き上がれなくなってきたこと、元々は近眼であるが、二年前ころから書類、パソコンの字が見づらく老眼鏡を購入したが、近頃は老眼が更に進み小さな字は老眼鏡を外さないと見えなくなってきたこと……等々考えるとやはり歳を感じる。また、還暦を迎えた途端に色々な所からシニア割引のダイレクトメールが来るようになり、本当に還暦を迎えたのだと何故か強烈に寂しい気がしてならない。

しかし、有り難いことにこの世に生を享けて六十年大きな病気もせず、事故にも遭わず、一度も入院せず、六十年生きてこられたことに感謝をしている。これからは還暦を迎えたことを自覚して大病につながらないように、お酒もほどほどに適度な運動を心がけてそろそろ健康寿命について真剣に考えないといけないと思っている。

元巨人軍監督の長嶋茂雄さんは還暦を迎えたときの挨拶で「第一回目の還暦を無事に迎えることができました……」といったそうですが、あの人を見てみると、本当に二度目の還暦(大還暦百二十歳)を迎えることが出来るのではないかとの錯覚にとらわれる。二度目の還暦とまでは考えないが、現在の平均寿命(男性七九歳)までは、健康でいけたらと思っている。幸いにして定年後も但馬漁船保険組合に勤めさせていただいているので、今までと変わらず規則正しい生活はできる。「健全なる精神は健全なる身体に宿る」の例えもあるように気力と体力を充実させて頑張つてやっていきたいと思っています。

CONTENTS

No.697 November. 2014

- 2 ようこそ
- 3 平成26年度 大日本水産会功績者表彰の受章者が決定
松葉ガニ漁 解禁
- 4 貝原俊民元理事長 逝去
兵庫産水産物が学生食堂メニューに登場
- 5 海事債権条約の改正で船主責任制限額引き上げへ
- 6 淡路市でかいぼり作業
- 7 摂播漁青連 関学生協祭に出店
- 8 淡路島の生サワラ丼 販売開始
- 9 大輪田塾だより
- 10 全国で展開する海岸・河川などでの清掃活動について
- 12 JF東播磨での“命を守る運動”海難防止講習会
海難事故をなくそう
- 13 兵庫JCC通信
- 14 旬に想う
アサリ天然種苗試験 始まる



表紙の言葉

「松葉ガニ解禁」(香美町香住区)

(写真提供：JF兵庫漁連 西上 幸作氏)

松葉ガニ漁が解禁となり、但馬の各浜では、この日待ちわびた仲買人らが威勢よくカニを競り落としていました。

写真のズワイガニは1kgを上回る立派なサイズ。甲羅にはカニビルの卵と成虫が付いています。

このカニビルは海底の泥の中で生活し、魚の体液を吸って成長するそうです。そして泥の海底では、カニビルにとって最適な産卵場所がカニの甲羅であり、カニの体液を吸ったり寄生することはないとのこと。

甲羅についている黒い粒はカニビルの卵で、カニが脱皮してから時間が経つほどに多く産み付けられることから、卵の数にはカニの身入りの良しあしを判断する目安として知られます。

ズワイガニとともに上がってくるカニビルもまた、但馬の冬の到来を告げる生き物なのです。

平成26年度 大日本水産会功績者表彰の受章者が決定されました!

◎平成26年度 大日本水産会功労者表彰 受章

～兵庫からは2名が受章～

(一財) 海苔増殖振興会 副会長 山田 隆義 氏 (JF神戸市組合長、JF兵庫漁連会長)

(一社) 淡路水交会 前会長 前田 吉計 氏 (JF南淡組合長)

大日本水産会(白須 敏朗会長)は10月10日(金)に平成26年度水産功績者表彰の受章者37人を決定し、発表しました。

明治23年から続く、伝統あるもので、毎年、水産業の振興と発展に功績のあった人を表彰しており、これまで2,975人が受章されています。

本年度は山田 隆義氏、前田 吉計氏の2名が受章されました。表彰式は11月27日(木)に東京で開催されます。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



山田 隆義 氏



前田 吉計 氏

日本海の冬の味覚、松葉ガニ漁が、富山県から島根県までの1府6県で11月6日(木)午前0時に一斉に解禁となりました。日本一の水揚げを誇る兵庫でも、JF但馬(眞野 豊組合長)、JF浜坂(川越 一男組合長)所属の沖合底曳船49隻が次々に出港し、解禁を待って一斉に網を投入しました。同日午後には44隻が各浜に帰港して初競りが行われました。あわせて柴山港では、松葉ガニ初せりまつりが開催されたほか、JF浜坂のセリでは、オスガニが昨年より8万円高い1尾 33万円の値を付け過去最高値を更新するなど、解禁を迎えた浜は大いに沸きました。

初日の但馬地区全体での水揚げ量は、オスガニ・メスガニともに昨年を上回り、合



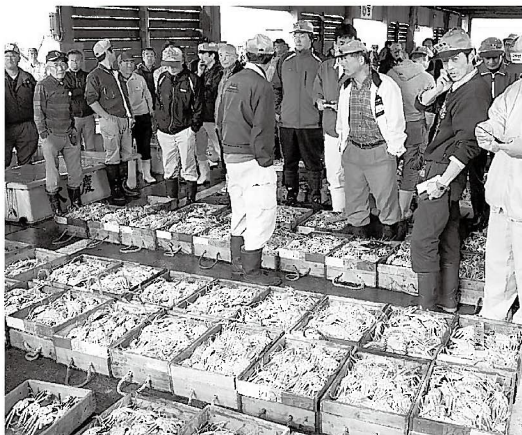
松葉ガニ漁解禁!!

JF兵庫漁連 但馬支所

計で前年比124%と順調な滑り出しとなり、総水揚げ金額も同121%の約1億4千3百万円となりました。



選別作業の様子(浜坂漁港)



セコガニもたくさん水揚げされました(香住漁港)

貝原俊民 元理事長 逝去

(一財)兵庫県水産振興基金



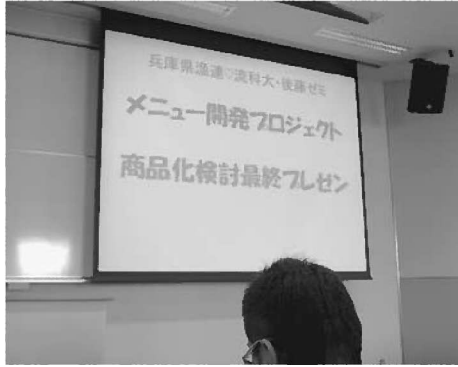
前兵庫県知事で、当基金の設立者であり、現名誉会長の貝原俊民氏(81歳)が、11月13日(木)午後3時50分、交通事故のため神戸市内の病院で死去されました。新聞では、同日午後2時半ごろ、神戸ポートアイランド内の市道交差点で、乗用車同士が衝突し、車の後部座席に乗っておられて事故に遭われたとのこと。貝原氏は、貝農林水産部長時代から知事ご退任後も、水産振興にご指導、ご配慮を賜り、漁業団体の行事にも積極的にご出席頂いておりました。平成17年9月に解散しましたが、県下の昭和生まれの漁協組合長で構成していた「昭友会」には設立以来欠かさず参加され、ネクタイを外し、ワインを片手に楽しく懇談された思い出多い方でした。当基金の設立に際しても、当時の山田岸松兵衛水産振興会長とともに大変ご尽力いただき、平成13年までの15年間、初代理事長をお務めいただきました。

急なご逝去で、巨星を失ったショックから立ち直れませんが、今はただ、これまでの漁業界に賜った温かいご指導、ご配慮に感謝申し上げます、ご冥福をお祈り申し上げます。

一般財団法人 兵庫県水産振興基金
理事長 山田隆義
役員一員 同

兵庫産水産物が学生食堂メニューに登場! 流通科学大後藤ゼミの学生らがプレゼンテーション

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会



大西会長をはじめとする審査委員に披露しました。メニュー紹介で、ゼミ生らは、メニューのコンセプトや自分たちで行ったマーケティング手法を説明しつつ、商品レシピや試食用サンプルも紹介し、それぞれ工夫を凝らした発表を行いました。発表された内容は以下の通りです。

- ① アボカドしらすマフィン
- ② 海鮮タコス
- ③ ひょうごのふりかけ(兵庫のり・シラスをベースに、春サワラ、夏・タコ、秋・カワ



ゼミ生の工夫を凝らしたプレゼンテーションがありました



「アボカドしらすマフィン」試作品

- ④ タコの炊き込みご飯
 - ⑤ ハモ天のり蕎麦
- 発表後のメニュー化検討会では、審査委員らの感想や意見をもとに商品化に向けた話し合いがありました。同大学内レストラン YUKADINING 富永尚義店長の意見ではどれも商品化は可能とされ、食材供給ではJF兵庫漁連が協力することで、11月4～7日「アボカドしらすマフィン」11月10～14日「タコの炊き込みご飯」が夕食メニューとして登場する予定となりました。

(当日の審査委員: 摂津播磨青連 大西正起会長、県水産技術センター 小田垣寧専技、JF兵庫漁連 藤澤憲二次長、摂津播磨青連事務局長 土井俊彦主任、RYUKADINING 富永尚義店長、兵庫県水産振興基金 西詰宗弘)

海事債権条約の改正で船主責任制限額引き上げへ

船舶所有者等の責任の制限に関する法律（船主責任制限法）の責任限度額を現行の約1・51倍引き上げる改正案が今国会に上程されます。これは2012年4月、国際海事機関（IMO）法律委員会で96年船主責任制限条約・議定書に規定する責任限度額（人損・物損）を約50%引き上げる修正案が採択され、批准国が来年4月19日に発効する決議をしたことを受けて、国内法を改正しようというものです。

衆院法務委員会で

盛山議員「被害救済に配慮を」

これに関連して去る10月15日、衆議院法務委員会の代表質問で盛山正仁議員（兵庫1区・自民党政調・法務部会長）が「法律は被害者救済を目的としているが、実際、海では燃料油流出で環境汚染や漁業被害など、法律でカバーしきれない被害が発生し漁業者は泣き寝入りとの事例があります。所管省は船主責任の制限だけでなく、他省庁とも連携して被害者救済に配慮されたい」と発言され、大塚 拓法務大臣政務官は「兵庫の船舶事故も承知しており、油濁損害賠償法は国交省、共済は農水省など省庁にまたがる問題もあるのでよく検討します」との答弁がありました。又、この委員会に先立ち、10月8日、自民党政調・法務部会による経団連、船主協会、船主責任相互保険組合など業界団体のヒヤリングがあり、漁業団体から田沼政男JF兵庫漁連副会長が意見陳述をしました。氏は「08年、明石海峡で貨物船三隻の衝突事故があり、うち一隻が沈没し大量の燃料油流出で大規模な漁業被害が発生したが、その被害救済には船主責任制限法が壁になり全損害の約10分の1しか弁済されず、このため、漁業者は操業再開に過大な資金調達に苦しめられた」と当時を振り返り、貨物船の燃料油流出事故は想像を超える漁業被害をもたらす恐れがあり、現行法の不備を補う救済制度の整備を強く訴えました。

一般貨物船のタンク容量に注目

古来、世界の物流は海運が唯一の手段であり、各国は古くから自国の海運企業を保護育成するために自己の

責任を一定額に制限する制度を設けてきましたが、国際間の混乱も多く、これら船主責任制限制度を国際的に統一したのが1957年、ブラッセルで締結された海上航行船舶の所有者等の責任の制限に関する国際条約（1957年船主責任制限条約）です。以後、経済環境の変化に伴い、被害者の不利を是正するため、76年IMCO（IMOの前身）で海事債権条約が採択され、86年に発効しています。この間、我が国は82年に「船舶の所有者等の責任の制限に関する法律（船主責任制限法）」を国内法化しましたが、当時、漁業損害に対する責任が一方的に制限されたことが、漁協組織が強く反発したことを記憶されている方も多いでしょう。この条約によって、船舶所有者等の責任の限度額は、一船・一事故毎に船舶のトン数に応じて規定され、一事故による船主・用船者等の賠償額が一定額に制限されるという現行の仕組みが出来ました。その後、IMO法律委員会（95年）で76年海事債権条約の責任制限額を約2・5倍引き上げる議定書（96年条約）が採択され、2004年5月に発効しています。現行国内法は96年議定書に基づいており明石海峡事故でその不備が明らかになりました。今、国では平成27年4月に発効する12年条約に基づき、現行責任制限額が1・51倍引き上げられる法改正を準備中であり、大いに歓迎すべきことですが、一般貨物船の燃料油流出がもたらす漁業被害には万全ではないことをしっかりと認識しておきたい。別表にも示すとおり小型貨物船といえども燃油保有量は侮れません。また、法でカバーしきれない漁業損害を補填救済する基金制度の創設も、法改正と併せて国会で議論されることを願います。（U/T）



10月8日開催の自民党法務部会での意見陳述（写真提供：西村やすとし事務所）

| 項目区分 船舶区分 | 貨物船仕様 | |
|--------------|-------------------|---------|
| | 燃料タンク容量 | 燃料最大積載量 |
| 199 t | 48m ³ | 38kl |
| 499 t | 55m ³ | 44kl |
| 699 t | 80m ³ | 64kl |
| 799 t | 120m ³ | 96kl |
| 1,000 t | 120m ³ | 96kl |
| 2,000 t | 193m ³ | 154kl |
| 3,000 t | 230m ³ | 184kl |
| 5,000 t | 603m ³ | 482kl |

【注】 上記容量は機関主機分のみ。
主機燃料は粘度が高く分散しにくいC重油が多い。

淡路市でかいぼり作業 JF森・JF仮屋の漁業者が参加

（二財）兵庫県水産振興基金

平成20年度から始まったJF森（森義政組合長）・JF仮屋（岡田光司組合長）の漁業者と地元農業者が協働す

る「かいぼり」。ため池の栄養を海へ流すことはもちろん、貯水量増加や堰堤のメンテナンスのほか、外来魚の駆除も行え、農業のみならず防災や環境面の効果でも注目されるこの活動は島内各地に広がっています。



JF森・仮屋などからなる「淡路東浦ため池・里海交流保全協議会（谷正昭会長）」は、10月8日（火）、9日（水）の2日間にわたり、淡路市釜口の「大田池」でかいぼりを行い、漁業者や地元農業者ら約60名が



海には近く、操業する漁船が多数見えました

作業に参加しました。8日は事前に水を抜いた池に残った魚を取り上げ、「底樋（そこひ）」の周りの土砂を流し、9日はポンプを使って放水されるなか、漁業者が鍬などを使い作業を進めました。この池でのかいぼりは10年以上行われていないとのこと、底には最大約1・5mの土砂が堆積していました。途中の用水路で漁業者が泥を流す作業を行ったところ、海までの距離が近いので、海岸では海の色が広範囲に変わっているのが肉眼で確認出来る



沢山の藻が堆積していました

ほどでした。この作業には今年も多くの報道陣が訪れ取材を行ったほか、神戸大学の女子学生も卒業論文のテーマとして取り上げ、聞き取り調査とともに作業にも参加していました。
森組合長は「昨年、この事業を続けるべきか組合員に尋ねたところ、やることに意味がある」と言ってくれた。問題意識を持って取り組んでくれることがありがたい。今後、さらに広い範囲で実施できれば」と期待を寄せていました。



学食で人気“LOVE SEA丼” 他校からもオファー？ 摂播漁青連 関学生協祭に出店

(一財)兵庫県水産振興基金

10月22日関西学院大学生協祭が西宮市上ノ原の同大学構内で開催され、生協からの要請で摂播地区漁協青壮年部連合会(大西 正起会長・JF伊保)の部員ら13人が、イカナゴ磯辺揚げ、明石タココロッケを販売し、海の幸のPRに努めました。当日は、時折、小雨交じりの寒風が吹き抜ける生憎の肌寒い曇り日となり、会場を訪れる学生もまばらで、物販は予定の3分の1程度と低調でした。それでも、イベント広場に隣接した大学生協運営の学食BIG MAMAなどでは、同漁青連が提案した「LOVE SEA丼」シリーズのハモカツ丼コーナーに長い行列が出来ていました。今回の「ハモ」食材は4日間続くもので、10月21、22日は自家製タルタルソースをのせた「ハモタルカツ丼」、23、24日は「ハモ天丼」で何れも100食限定メニューとのことです。日頃、学食メニューで魚を食べる機会が少ないという声もありますが、以前「LOVE SEA丼メニュー」で「しらす丼」の味を知った学生らは、新鮮なハモを使った熱々のカツ丼を廉価で味わえるとあって、初日から人気メニューとなっていました。

摂播漁青連の会員らと関西学院大学の皆さんとの交流は年を追う毎に深まっています。きっかけは大輪田塾修了生 大西 正起さん(4期生)、大角 生馬さん(5期生)らと、同塾運営委員で講師団顧問の同大学文学部 田和 正孝教授との出会いにより、田和教授の配慮で、大角さんらが同教授ゼミ学生と交流会をもつたことに始まります。そこで、海のこと、漁のこと、環境のことなどを漁業者の目線と言葉で有りのままを伝え、また、学生らは漁業にどんな認識を持っているかなど、意見交換を通じて、ともに生きた勉強で知見を高めてきました。この交



今回のポスターは学生がデザインしたもの

流活動が発展し、学食で季節の旬を味わってもらおう「LOVE SEA丼」シリーズがスタートしたものです。部員達は「美味豊かな兵庫の魚介類を知ってほしい」と純粋な願いで試食を提供したこと、大学生協が求める学食新メニュー開発と双方の思いが一致したことで、同漁青連の活動は大きな成果を上げています。ただ、ここに至り、人気メニューで需要が高まり、季節毎の食材確保に手を取られ過ぎると本業に影響しかねないという部員らの嬉しい悩みもあり、大西さんらはJF兵庫漁連流通加工部やシートクラブとタッグを組んで、学食の要望に応えようと努めています。この日も、甲南大学生協の役員や食堂責任者らが漁青連のブースを訪れ、部員らと意見交換したあと、学食で「LOVE SEA丼」を試食して帰られました。事務局を担当するJF兵庫漁連職員は、国立兵庫教育大学院、流通科学大学等複数の大学からも交流希望の動きがあり、同漁青連だけではさばききれないが、かといって、商業ベースで県産水産物売り込むような交流にはしたくないという大西さんや大角さん、部員らの純粋な活動意識をしっかりと受け止めながら、魚食普及活動の拡大へ仕組み作りを考えなければ……と、



学生との交流も図ることが出来た一日となりました!

頭を悩ませています。何れにしても、未踏の分野に第一步を踏み込んだ摂播漁青連の皆さんの努力に敬意を表し、活動を支援したいと思えます。

淡路島の生サワラ丼 販売開始!

～「淡路島サワラ食文化推進協議会」の挑戦～



(一財)兵庫県水産振興基金

この後、播磨組合長と地元水産加工会社 北本 富士（みつひと）専務が「身が柔らかいので切り身が難しい」など説明をしつつ見事な手さばきで5枚におろし、児童らは刺身やタタキのほか、醤油とミリンで作ったタレをかけた「ツケ」にして、ご飯の上に載せて「生サワラ丼」を完成させました。丼は少し食べたのち、サワラのアラでとった出汁を掛けて

洲本市五色町は明治以前からサワラ漁が盛んな地域であり、今もサワラが「市の魚」に指定されています。このサワラは、往時から大漁時には地域住民に振舞われたり、田植え作業の無事の終了を祝う魚として食べられていたことです。そのような食文化を伝承しようと今年度から、JF五色町（播磨 孝次組合長）をはじめ五色町商工会、地域飲食店、市、県からなる「淡路島サワラ食文化推進協議会」を立ち上げ、食文化の再興とともに地域の活性化に取り組んでいます。

10月7日（火）には、文化を伝えるには、子供たちの理解が重要」と同市立都志小学校で料理教室を開催し、6年生の児童19名が郷土料理「サワラ茶飯」に挑戦しました。調理に先立ち、播磨組合長から児童らに、大きなものは長さメートル、重さ10キロを超えることや、今年もお陰さまで大きなサワラが食べられました」と尾びれを玄関に飾る習慣があったこと、漁業者が資源管理に努めていることなどサワラにまつわる話があり、「サワラは洲本市のシンボル」と締めくくられました。

洲本市五色町は明治以前からサワラ漁が盛んな地域であり、今もサワラが「市の魚」に指定されています。このサワラは、往時から大漁時には地域住民に振舞われたり、田植え作業の無事の終了を祝う魚として食べられていたことです。そのような食文化を伝承しようと今年度から、JF五色町（播磨 孝次組合長）をはじめ五色町商工会、地域飲食店、市、県からなる「淡路島サワラ食文化推進協議会」を立ち上げ、食文化の再興とともに地域の活性化に取り組んでいます。



サワラにまつわる地元の風習を説明する播磨組合長



自分で調理したサワラは一層美味しかったようです

「サワラ茶飯」としても味わいました。3種類の食べ方を堪能した児童からは「サワラはこれまであまり食べたことがなかったが、とても美味しい。家で作れそう」と話すなど好評でした。

また、「食文化継承とともにサワラで地域の活性化にも繋げよう」と五色町を中心に市内外の飲食店9店舗が「淡路島で獲れた生のサワラを使う」ことをルールとして料理の提供を開始しました。「ツケ丼」、「サワラ茶飯」などに加え、山芋を掛けたりとアレンジを加えた料理を千円台で提供するとともに、地域に大小2種類のノボリを設置し、10月26日（日）から淡路島の新名物料理として売り出しました。同日、ウェルネスパーク五色で開催され、約6,000人の来場者があった「秋のふれあい青空市」で、今回の取組みに連動したイベントを開催。生サワラ丼約250食を振る舞ってPRに努め、食べた親子連れからは「おいしい」と好評を得ました。

淡路島で今年年間50万食以上を売上げる「淡路島の生シラス丼」に続けと始動したこの取り組みに、今、



見事な包丁捌きを披露した北本専務

期待が高まっています。
（※洲本市のホームページ、五色町商工会ホームページにて「島の漁師飯 淡路島の生サワラ丼」のパンフレットを掲載しております。提供店舗はホームページからご確認ください）



振舞いの整理券は早々に終了!評判も上々!



播磨組合長が手渡しで生サワラ丼を振舞いました

大輪田塾だより

平成26年度 大輪田塾修了式ならびに入塾式開催

10期生5名が入塾

(二財)兵庫県水産振興基金

「幅広い視野を持った将来の水産業界をリードしていく人材育成」を目標に様々な研修・講習を行っている同塾は、毎年、この時期に修了・入塾式を行っているっています。今年も10月21日(火)、兵庫県水産会館において「大輪田塾修了式ならびに入塾式」が行われ、8期生3名が修了するとともに、新入生(10期生) 5名が入塾しました。

山田 隆義塾長(JF兵庫漁連会長、県農林水産局 新岡 史朗局長をはじめ、同塾運営委員、県・系統役員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ山田塾長から修了証書を手渡され、「決意の言葉」を述べました。その後、9期生 相田 欽司さん(JF仮屋)から「送る言葉」を受けた8期生は決意を新たに卒塾しました。



修了生の記念撮影
(前列左から：赤松さん、魚さん、山田塾長、新岡局長、津國さん)

修了生の紹介

| 氏名 | 所属 | 漁業種類 |
|-------|-------|------------|
| 津國 和哉 | JF仮屋 | 小型底曳網 |
| 魚 裕之 | JF一宮町 | ノリ養殖、小型底曳網 |
| 赤松 克司 | JF但馬 | 漁協職員 |

入塾生の紹介

| 氏名 | 所属 | 漁業種類 |
|-------|--------|-----------|
| 小林 幸生 | J坊勢 | 小型底曳網、船曳網 |
| 引野 裕允 | JF仮屋 | 小型底曳網 |
| 山中 盛吉 | JF一宮町 | 漁協職員 |
| 島崎 卓也 | JF但馬 | 漁協職員 |
| 藤本 朋也 | JF兵庫漁連 | 系統団体職員 |

(敬称略・順不同)



入塾生の記念撮影
前列左から：藤本さん、島崎さん、引野さん、山田塾長、新岡局長、山中さん、小林さん

続いて行われた入塾式では、新入生代表の小林 幸生さん(JF坊勢)が「誓いの言葉」を述べ、9期生 竹中 太作さん(JF坊勢)から歓迎の言葉が贈られました。

式終了後には、関西学院大学文学部 田和 正孝教授による記念講演「東南アジアの塩干魚とマレー半島の浜の加工現場から」が行われ、10期生は塾生としての研修をスタートしました。

8期生のこれからの活躍を祈念するとともに、10期生の頑張りにも期待します。

特別寄稿

全国で展開する海岸・

河川などでの清掃活動について

公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構



毎年、全国各地で集中豪雨や台風が大きな災害をもたらしています。大雨で流れ出した様々なゴミは河川から海へと流れ出て、国内外の海岸へ漂着します。また、海外から流れ出したであろう外国語表記のゴミも国内へ漂着しています。これら国内外の海岸に漂着・漂流するゴミは、環境や生態系への影響が心配されているなか、近年、地域で実施される海岸・河川清掃活動に年



間100万人以上の方が参加されています。

当機構では約20年前から全国に海浜・河川の清掃活動を呼びかけ、毎年50万枚のゴミ袋を提供して活動を支援しています。また、これらの活動状況を地方自治体の協力を得て調査し、①清掃活動で回収したゴミの内容を調べた「海浜等清掃活動実施状況調査報告



書」、②どのような団体が活動をしているのかを調べた「海浜等の美化活動事例調査報告書」をまとめています。

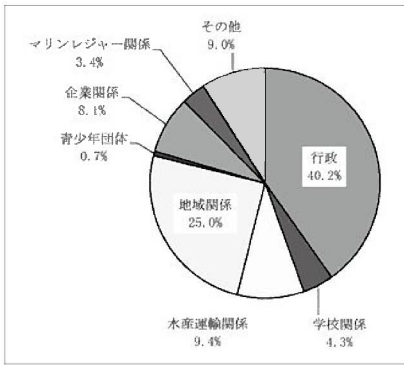


図2 参加団体別の実施割合

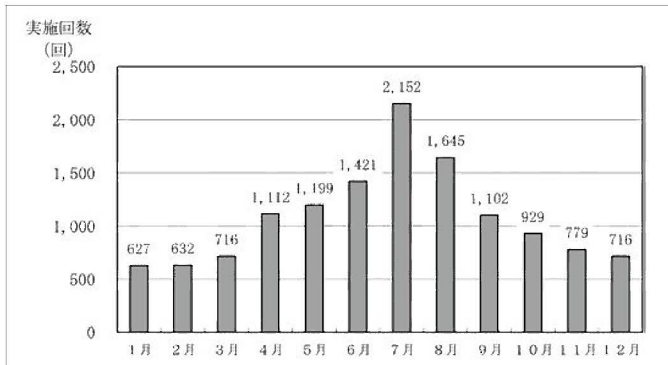


図1 平成25年 月別実施回数

清掃活動の主催者および参加者は、地方自治体など行政によるものが活動の半数近くを占め、その他、漁業協同組合の組合員や女性部、学校が主催する子供たちの課外活動、ボランティア団体、親子や会社ぐるみの参加など様々です。ゴミの種類としては、海岸で、ペットボトル、空缶、弁当の空箱、自転車や傘、山からの流木など多岐にわたり、河口域は流域の生活ゴミが主で、大雨で山から流れて河口にたどり着いた流木も多く見受けられます。ゴミは自然災害や地域の日常生活を映す鏡であるといえるでしょう。

表1 清掃実施場所別の清掃規模と参加者数

| | | 全体 |
|----------|-----------|---------|
| 清掃人数 (人) | | 863,231 |
| 清掃距離 | 延べ距離 (km) | 14,398 |
| | 実距離 (km) | 8,882 |
| | 面積 (k㎡) | 1,457 |

平成25年(1~12月)に実施された清掃活動についての調査では、32都道府県から回答があり、延べ13,030回の清掃活動と、延べ約86万人が参加したことがわかりました。

表2 種類別のゴミ回収量

単位：m

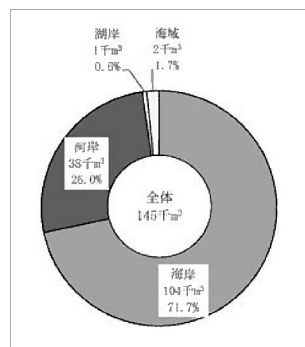
| 種類 | 全 | 体 | 海 | 岸 | 河 | 岸 | 湖 | 岸 | 海 | 域 |
|---------|--------|----------|--------|----------|-------|----------|----|----------|-----|----------|
| 布紙 | 227 | (0.5%) | 134 | (0.3%) | 93 | (6.2%) | 1 | (8.7%) | 0 | (0.0%) |
| 材木、木片等 | 1,375 | (3.2%) | 1,082 | (2.6%) | 291 | (19.5%) | 1 | (4.4%) | 2 | (0.7%) |
| ペットボトル | 420 | (1.0%) | 347 | (0.8%) | 65 | (4.3%) | 2 | (13.1%) | 7 | (3.3%) |
| 弁当箱、トレイ | 117 | (0.3%) | 98 | (0.2%) | 14 | (1.0%) | 1 | (8.7%) | 3 | (1.4%) |
| ロープ、網 | 229 | (0.5%) | 147 | (0.4%) | 36 | (2.4%) | 0 | (0.0%) | 46 | (21.7%) |
| 缶類 | 278 | (0.7%) | 228 | (0.6%) | 47 | (3.2%) | 2 | (17.5%) | 1 | (0.2%) |
| ガラス | 42 | (0.1%) | 33 | (0.1%) | 8 | (0.6%) | 1 | (8.7%) | 0 | (0.0%) |
| 人工物その他 | 30,624 | (71.6%) | 30,347 | (73.9%) | 263 | (17.6%) | 4 | (38.9%) | 8 | (4.0%) |
| 人工物計 | 33,312 | (77.9%) | 32,416 | (78.9%) | 818 | (54.8%) | 11 | (100.0%) | 67 | (31.3%) |
| 流木 | 3,685 | (8.6%) | 2,988 | (7.3%) | 593 | (39.7%) | 0 | (0.0%) | 104 | (48.9%) |
| 海藻 | 195 | (0.5%) | 162 | (0.4%) | 1 | (0.1%) | 0 | (0.0%) | 32 | (15.0%) |
| 自然物その他 | 5,596 | (13.1%) | 5,503 | (13.4%) | 83 | (5.5%) | 0 | (0.0%) | 10 | (4.7%) |
| 自然物計 | 9,475 | (22.1%) | 8,653 | (21.1%) | 676 | (45.2%) | 0 | (0.0%) | 146 | (68.7%) |
| 合計 | 42,788 | (100.0%) | 41,069 | (100.0%) | 1,494 | (100.0%) | 11 | (100.0%) | 213 | (100.0%) |

注1：各欄の値は四捨五入しているため、人工物計・自然物計・合計はその内訳の合算と一致しない場合がある。
 注2：ここでのゴミ回収量はゴミの種類を把握している場合のみの集計値である。

海の羽根募金
 当機構で支援する全国の海浜・河川清掃活動は、皆さまから頂いた「海の羽根募金」によって支えられています。この募金から、海浜や河川、湖岸等の清掃活動のゴミ袋を配布して支援するとともに、全国で実施される海浜等の清掃活動状況の取りまとめや、漁業者が参加した植樹活動や環境保全の取り組み等を調査し、美しい海を守ることの重要性について広く普及活動を行っています。活動の詳細は当機構ホームページに掲載しています。
 (http://www.umitonagisa.or.jp/)



ゴミの回収量は、全体で約14万5千m³でした。場所別では海岸が約10万4千m³で最も多く、次いで河岸が約3万8千m³となっており、この2つを合わせると全体の約98%を占めています。なお、ここでの回収量は、ゴミの種類を把握している場合と、総量のみ把握している場合の合計値です。



注：各値は四捨五入してあるため、合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。
 図3 ゴミ回収量とその割合

「海の羽根募金」への寄付のお願い

今後とも安定的に本活動を継続していくためには、皆さまのご支援が是非とも必要です。当機構の事業にご理解を賜り、募金・寄付金のご拠出を頂きますよう衷心よりお願い申し上げます。また、当機構の活動を全般的に支援して下さる会員も募集しております。

団体会員 1口：1万円 ・ 個人会員 1口：5千円

もし、ご支援いただけます場合は、送金手数料が無料になる郵便払込取扱票を当機構までメール・電話でご請求下さい。郵便払込取扱票をお送りします。

(連絡先) office@umitonagisa.or.jp / 03 (5800) 0130 / 加藤、福田

- ※ 当機構への寄付及び会費は寄付金控除等の対象になります。
- ※ 会員になっていただける場合は、機関誌「メッセージ海と渚」をお届けして、全国の活動を報告しています。



JF東播磨での“命を守る運動” 海難防止講習会

～組合員・
プレジャーボート所有者
あわせて約70名が参加～



小原専門官の講演の様子



様々なライフジャケットが紹介されました

訴えられました。続いて、JF兵庫漁連指導部 宗和 貴光統括代理による膨張式ライフジャケットの作動体験と様々なライフジャケットの紹介がありました。最後に、加古川市中央消防署 松尾信也氏、荻野篤彦氏を講師に迎え、CPR（胸骨圧迫・人工呼吸）とAEDを使った救急法の説明と実演を行いました。



10月19日（日）、JF東播磨（川崎十九男組合長）は「海難防止講習会」を開催し、組合員をはじめ近隣に停泊しているプレジャーボート所有者など関係者約70名が参加しました。
この日の講習会は加古川市海洋文化会館で行われ、3課題について話がありました。加古川海上保安署 小原雅之専門官は「漁船・プレジャーボートの海難事故」と題して、全国的に小型船舶の事故が増加しているなか、ライフジャケットの着用や防水型携帯電話の所持など自己救命策の確保を

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

ライフジャケット着用の際は体に合ったサイズを選び、金具等で調整して使用しましょう。ご安航を祈る！

固型式ライフジャケット
モデル：神戸運輸監理部
筒井 宣利調整官
※右手のサインはUW
(UWは国際信号旗で、“ご安航を祈る”の意)



～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。
※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



よく浮きます！

モデル：JF兵庫漁連資材部 米山 裕子さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078-942-9272）までお問い合わせください

地元産大豆で食育教室

JA兵庫西

JA兵庫西 西播磨営農生活センターは9月25日(木)から4日間、上郡町立上郡中学校で「地産地消料理教室」を開き、2年生127人が地元産の大豆を使って木綿豆腐とおからドーナツ作りに挑戦しました。

同JA女性会西播磨地区と協力して、2004年から開催。毎年、同中学校や上郡小学校などを中心に、地産地消の大切さを伝える食育活動に取り組んでいます。今回の教室では地元産の大豆7キロを使用しました。

26日には、生徒32人が豆腐作りに挑戦しました。女性会員7人が講師となり、ミキサーにかけた大豆を鍋で煮たり、こし袋で豆乳とおからを分けたりする作業を協力して取り組みました。生徒は「初めて自分で豆腐を作りました。地元産なのでより美味しく感じます」と完成を喜びました。

同女性会の小谷美恵子会長は、「自分で作る楽しさや食の大切さがわかってもらえればうれしいです。子どもたちとの賑やかな食育活動で、私たちも元気をもらっています」と話しました。



地元産大豆で豆腐を作る生徒ら

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

防災は 地域コミュニケーションの強化

～2014年度 災害対策委員会を開催～

兵庫県生協連では、9月17日、兵庫県民会館にて「2014年度 災害対策委員会」を開催。兵庫県からもご参加いただき、会員生協の役職員あわせて16名が参加しました。

冒頭、三宅専務理事の挨拶のあと、「震災を振り返り今なすべきこと～防災は隣近所の助け合い～」と題して、西宮市民共済生活協同組合 常務理事 岸本 正 氏（ひょうご防災特別推進員・兵庫県防災士会理事・総務省消防庁防災アドバイザー）より、地震の周期や津波発生のおそれ、防災グッズや備蓄、防災で大切にしたいことなどについてお話をいただきました。

「地震が起こったら、姿勢を低く、体や頭を守って待つこと。机の下にもぐった際には、必ず机の脚をしっかり握っておくこと」「非常用の食料品などの備蓄は、“ローリングストック法”で、非常食を普段の生活で使用し、買い足して常に新しいものを常備すること」など、普段、身のまわりにあるもので災害時の代用品になるものを見つけるヒントになりました。途中、「緊急地震速報」や「津波警報」などの防災無線を聴き比べたり、防災についての三択クイズに参加者が色紙で答える場面もあり、参加者それぞれの防災意識を知ることができました。

また、防災の重要点として「①非常時の備えではなく、普段からの備えを行う②助け合いの大切さ・地域コミュニケーションの強化③行政、地域住民、事業所の防災スクラム④防災対応力の向上・防災リーダーの養成」などを確認。“公助”“自助”“共助”に加え、地域の方々が支え助け合う“近助”の大切さを改めて学びました。

最後に兵庫県と兵庫県生協連が2008年1月に締結した緊急物資協定の全項目および実施細目ほか、緊急連絡先についての確認を行いました。



防災クイズでは参加者の防災意識を色紙で確認し合いました

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

10月発行の拓水第696号について下記の誤りがありました。
関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

お詫び

10頁(裏表紙カラー)5行目から

(誤) この祭りは市内のJ F 湊、同南あわじ、同福良、同南淡の4漁協

(正) この祭りは市内のJ F 湊、同南あわじ、同福良、同南淡、同沼島の5漁協



旬に想う

写真と文
遊方子



広辞苑をそばに

◆何が安いかといって事典類ほど安価なものはないと思っ
て。あらゆる知識が詰め込まれ、疑問に対して立ち所に答えを出
して呉れる。辞書を検索する愉しみも図り知れない。事典や辞書
が好きで「離れ小島へ何を持って行くか」と問われたら、即座に
「広辞苑」と答える積もりである。新聞紙上でも難しい言葉の解
説に引用され、その信頼度は辞書中では随一という所が実にい
い。言葉は常に新陳代謝しているため、後手後手に回るものを見
直しや改訂作業が必要だ。広辞苑の最新版(六版)は約一萬語を
新たに採用し、約24万項目に編集された。特別に薄く抄いた上質
紙を使っているため、厚みが変わらないのが嬉しい。

◆「広辞苑」の第一版が出版されたのが一九五五年の五月、掲載
項目は約二十万語で、価格は二千元だったそうだ。当時の公務員
初任給が九千円の時代だから、辞書としては破格のもの。どんな
方々が購入されたのだろうか。十九年前に、広辞苑段位認定委員
会により試験が実施され、応募して十段の免状を頂戴した。これ
が、今の原稿書きを継続できる根底にあり、強力な後押しをして
呉れている。「旬に想う」の連載も「広辞苑」に負う所大なのであ
る。「言葉は生き物」という通り、書きたい素材は無限に広がって
止むことを知らない。

◆「広辞苑」の青い表紙の背部分に浮き出ている模様があり、そ
の正体が気になっていた。《水辺に立つ鳥》か《池に浮かぶ睡蓮》
と言われているが、実際には何を意図したのか判らないけれど、
凸凹した感じが手に馴染んで大いに気に入ってはいる。
第六版の付録として、難読語一覧や常用漢字・人名漢
字・表外漢字と、アルファベット略語の解説もある別
冊が便利で、何かと役に立ってくれる。本編の掲載項目
の内には、生涯を通じて口にしらない言葉も随分と多く
含まれているが、それは意味不詳のものを調べる上で
は必要な項目である。どの項目を掲載するか、言葉の採
用・不採用が編者の腕の見せ所なのだ。

◆歳月が辞書を磨くというが、掲載された言葉は歴史
の証しである。過ぎ去る歳月の中で、生まれては消えて
ゆく。そして残った言葉が日本語として登録される。そ
れは必要から生まれて遅しく生き残った言葉ばかり。
作文は、此れらの言葉を組み合せ、紡ぎ出した織物であ
る。文章を作る際には傍らに辞書を置く。豊富な語彙が
作文には必須で、その貧富の差が出来上りを大きく左
右する。古い言葉、新しい言葉、そして舶来の言葉は見
知らぬ言葉、それらを使うことで文章が装いを整える。
辞書から学べる事は無限で、全く無駄が無いと思う。

アサリ天然種苗試験 始まる!!

～淡路島内各地で実施～

淡路地区漁協青壮年部連合会

後、採苗に適した地区を特定してい
く予定です。

淡路島内で、今
後、採苗に適した
地区を特定してい
く予定です。



淡路地区漁協青壮年部連合会(山崎
大輔会長・JF淡路島岩屋以下、淡路
漁青連)は、本年度研修会で三重県のJ
F鳥羽磯部浦村支所を視察した際、カキ
殻の粉末を原料とした固形物、ケアシエ
ル、などを入れた袋網によるアサリの天
然採苗の説明を受け、8月開催の第3回
役員会の結果、アサリ天然採苗試験の実
施を決めま
した。

袋網の設
置にあたっ
て、10月7
日(火)に
は洲本市で
勉強会を開
催し、県立水産技術セ
ンター 安信 秀樹主席
研究員からアサリの生
態について説明を受け
たのち、実施希望を
募ったところ7団体が
参加しました。10
月18日(土)、J
F兵庫漁連淡路の
りセンターで袋網
にケアシエルと砂
利を詰める作業を
行い、準備が出来
た団体から各浜に
設置しました。



アサリが入りそうな浅場に設置



18日の作業の様子